

令和 7 年度 福島大学基金研究推進事業助成による成果報告書

2025 年 11 月 7 日

学 長 殿

所属部局・職名

(所属・学年) 食農科学研究科修士 1 年

申 請 者 名

(学会発表助成の場合は参加者名) 佐藤翔悟

<p>助成の区分 (該当するものに○)</p>	<p>学会発表助成・学術出版助成・学術論文発表助成</p>
<p>研究活動名</p>	<p>農業農村工学会東北支部大会に参加</p>
<p>成 果 の 概 要</p>	<p>11 月 6 日に「温暖化がアキアカネの成虫の形態に及ぼす影響の解明」という 題目で口頭発表を行った。発表セッションは生態環境の 4-6 番であり、発表時 間 15:00～15:15 の 15 分間であった。</p> <p>発表では最初に、アキアカネが古くから日本に生息し、田園風景の象徴とし て生物文化多様性に大きな役割を担っていることを説明した。また、アキアカ ネが西日本を中心に絶滅危惧種に指定されていて、深刻に個体数が減少してい ることも説明した。その後、実際の採集方法や形態の計測方法などの材料と方 法について説明した。最後に、平均気温の高かった 2023 年、2024 年は形態が 有意に小さかったことを報告し、温暖化によるアキアカネの成虫の形態への影 響をまとめた。さらに、温暖化により形態が小さくなることで個体数の減少に 繋がる可能性も示唆することができた。</p> <p>発表後の質疑応答ではフロアからの質問が 2 件きた。いずれの質問でも大変 貴重な意見を頂くことができ、今後の研究の発展に繋げようと考えている。ま た、発表終了後も質問した参加者やその他の参加者とお互いの研究について議 論をすることができた。学会を通して、自身の研究を発表し議論できたことに 加え、他の参加者の研究も聴いて議論することができ、大変有意義な経験をす ることができた。また、参加者から研究に対するアドバイスや激励の言葉も頂 くことができ、今後の研究に対するモチベーションをより一層高めることがで きた。</p>